

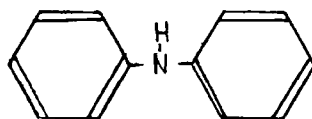
# ジフェニルアミンの分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年10月6日～昭和50年10月30日

2. 試料名 ジフェニルアミン (試料№K-120)

分子式  $C_{12}H_{11}N$

構造式



## 3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号

薬 発 第 6 / 5 号

49基局第392号

微生物等による化学物質の分解度試験による

### 3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

### 3.2 酸素消費量測定

3.1の記録による

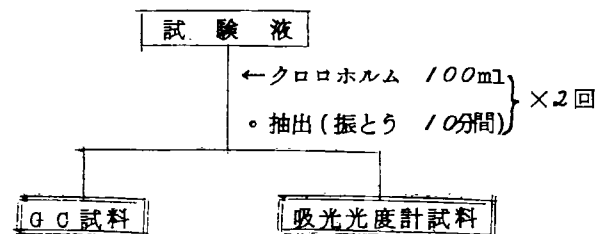
### 3.3 生分解試験後の直接定量法

#### (a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

紫外可視自記分光光度計

## (b) 分析試料の前処理



## (c) 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス  $N_2$

充てん剤 5%アピエソン L/クロモソルブ W

ガラスカラム 2mmφ×1m

カラム温度 210℃

紫外可視自記分光光度計 (吸光光度計)

波 長 240nm～370nm

スリット幅 4nm

使用セル 石英セル 10mm

## 4. 試験結果

	分解度(%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	0	1	—
GCによる結果	6.5	2	1
吸光光度計による結果	5.0	3	2

## 5. そ の 他

参考試験として汚泥系及び水系の回収（図－４，表－３参照）

を検討したところ、汚泥への吸着の可能性があり、汚泥系の回収率が水系に比べ悪く、実際は分解はないと推定される。

以 上